

チリのサケ・マス養殖産業 ～最近の動向～

はじめに

南米チリといえば、「銅の国」、あるいは「中南米の優等生」というイメージが一般的だ。チリは世界最大の銅生産国であり、その最大の輸出先は中国である。また、堅実なマクロ経済運営は中南米随一との定評がある。昨年秋口以降の世界的な経済危機を受けてチリも景気後退に陥ったが、銅価格の回復や中国の需要増、チリ政府が打った大規模な景気刺激策の効果等により、年後半には回復に転じるとみられている。

そうした中、サケ・マス養殖産業は、「伝染性サケ貧血症（以下、ISA）ウイルス」の蔓延による被害を受け、苦戦している。日本はODAを通じて、サケ・マス養殖技術をチリに定着させ、同産業発展の基礎を作った。チリ産養殖サケ、とくに銀ザケは90年頃から日本へ輸出されるようになり、今や日本の養殖サケ輸入の3分の1を占めている。ノルウェーやカナダ産に比べて安価で味も良いチリ産養殖サケは、弁当や惣菜などに幅広く利用されている。ISAウイルス被害は日本人の食生活にも影響を及ぼすのだろうか。

以下、チリのサケ・マス養殖産業の位置づけを紹介した後、ISAウイルス被害の現状を報告する。

チリのサケ・マス養殖産業の 位置付け

チリでは、サケ・マス養殖産業は加工業に分類されることから、漁業ではなく製造業に含まれる。サケ・マス養殖を行っている企業は、大手ノルウェー系の Marine Harvest 社、Mainstream 社のほか、日系の Salmenes Antartica 社（日本水

産）、地場の AquaChile 社や Friosur 社などおよそ 25 社で、チリ南部で生産活動を行っている。また、衛生管理や梱包などの関連事業を含めると、サケ・マス養殖業界は 80 社近くから構成される。

08 年の養殖サケ・マスの生産量は、65.7 万トンと、世界シェア 34.5% を誇り、ノルウェーの 44.0% に次ぐ世界第二位の規模となっている。また、輸出は近年、世界的な需要の高まりに伴い増加してきた。すなわち、08 年の輸出量は 44.5 万トンと、98 年から 2.5 倍に増えた。輸出額も 98 年の 7.1 億ドルから 08 年には 23.9 億ドルへと増加し、過去 10 年間でほぼ 3 倍となった。

養殖サケ・マスの輸出先構成比をみると、金額ベースでは、1 位米国（33.2%）、2 位日本（29.8%）、3 位 EU（11.9%）である。一方、数量ベースでは、1 位日本（36.6%）、2 位米国（24.3%）、3 位中南米（11.9%）となっている。チリ産養殖サケはアトランティック・サーモンと銀ザケに大別できる。輸出金額と数量で 1、2 位が逆転しているのは、日本へは安価な種類である銀ザケを冷凍で輸出しているのに対し、米国には高価な種類であるアトランティック・サーモンを生鮮のまま空輸しているためである。近年は海外でのスシ人気を反映し、アトランティック・サーモンの輸出量が大幅に増加している。

伝染性サケ貧血症（ISA） ウイルス蔓延

以上のように、チリのサケ・マス養殖産業は、近年好調に世界シェアを拡大してきた。しかし、07 年 7 月に国内初の ISA ウイルスが確認されて以降、被害が徐々に拡大した。ISA ウイルスは、アトランティック・サーモンのみが感染するとさ

れ、幸い日本が輸入している銀ザケに累は及んでいない。当初ノルウェーで発生、その後カナダでの感染も確認されたが、チリへの感染ルートは明らかになっていない。ノルウェー、カナダの両国政府は、養殖場の封鎖や期限付きの養殖禁止令を施行するなどして、ISA ウイルスの撲滅を図った。一方チリでも、08 年半ば頃から、各養殖企業の判断による養殖場の閉鎖が相次ぎ、09 年に入り後も、同産業の危機は深刻化している。

まず生産動向をみると、製造業振興協会(SOFOFA)によれば、ISA ウイルスの蔓延に伴いサケおよび魚粉生産が落ち込んだことから、09 年 6 月の水産加工業の生産は、前年同月比-32.1%となった。

次に輸出動向をみると、09 年 5 月の養殖サケの輸出額は 7,909 万ドル(同-40.5%)と、前年同月を大きく下回った。価格の低下(同-7.4%)に加え、数量(同-35.8%)の落ち込みが顕著だった。なお、Walmart や Safeway 等の米大手スーパーは、09 年に入ってからチリ産アトランティック・サーモンの販売を停止している。この動きが広がれば、6 月以降の輸出額はさらに減少するとみられる。

雇用面では、サケ労働者連盟によると、サケ・マス養殖場の閉鎖により、これまで 1 万 7 千人が解雇されている。例えば、Salmones Antartica 社は 08 年 5 月にアイセン工場を閉鎖、280 人を解雇した。また、ノルウェー系のサケ養殖関連技術会社 Akva Group でも同年 11 月に 40 人を解雇したほか、地場の Pesquera Camanchaca は 09 年 1 月に 700 人、AquaChile は 4 月に 450 人、Patagonia Salmon Farming は 5 月に 200 人を解雇している。

ISA ウイルス蔓延による生産、売上げの落ち込みから、サケ・マス養殖企業の資金繰りは悪化している。チリ銀行金融機関協会(ABIF)によれば、サケ業界の負債総額は、08 年末の 16 億ドルから 09 年 3 月には 20~25 億ドルへと増加した。このため ABIF は、09 年初よりチリ経済省に対し、

サケ業界救済スキームの創設を求めている。その内容は、一時的な資金繰り支援にとどまらず、養殖場の衛生管理の強化や病原菌被害を補償する基金の設立など、ポテンシャルの高い同産業の発展に資する長期的視野にたったものとなっている。しかし政府は、特定産業の優遇は望ましくないとの判断から、資金繰り問題については企業対銀行の協議(自助努力)、およびチリ経済開発公社(CORFO)による総額 4.5 億ドルの企業支援枠組みの利用により解決を図るべき、としている。なお、ABIF はその後も実態調査を続けており、8 月初旬に再度提案書を提出した。

今後の展望

チリ・サケ・マス協会(SalmonChile)は、09 年のサケ生産量は前年比で半減するとみている。また、アトランティック・サーモンの養殖再開にあたっては、ISA ウイルスの完全消滅が不可欠であることから、10、11 年の生産量は 7 割減となると予想されている。さらに、アトランティック・サーモンの成育には 18~20 ヶ月を要するため、08 年並みの生産量に回復するのは 15 年ともいわれている。このため、サケの輸出および雇用環境の改善についても時間を要することが予想される。

最後に、これまで経済損失を中心に最近の動向をみてきたが、ISA ウイルスの蔓延を機に、養殖場における抗生剤の多量使用が明らかになるなど、当局の衛生管理体制の不備も浮き彫りとなった。このため国会では、現在、漁業法の改定審議が行われている。ISA ウイルスの撲滅に向けた施策もさることながら、衛生管理の強化を図り、同産業の国際的な信頼を回復することが急務となっている。

(参 照)

チリ・サケ・マス協会(SalmonChile)

製造業振興協会(SOFOFA)

国家統計局(INE)

チリ銀行金融機関協会(ABIF)

(芦田 愛)